

# 広告



◀牡丹まつり会場にて。写真左が出倉さん



▲家具工場



▲震災により倒壊したままの家屋も



◀復興住宅

石狩・<sup>ほうしゅう</sup>彭州姉妹都市提携10周年記念事業「中国四川省彭州市訪問の旅」に参加し、彭州市に4月13日から16日までの4日間滞在しました。

2年前にも彭州市を訪れましたが、このときは義援金を届けるのが目的でした。平成20年5月12日、四川大地震が発生し、彭州市もまた大きな被害を受けました。NPO法人石狩国際交流協会では、義援金を募り、多くの方々から温かいご協力をいただきました。そして、ちょうどそのころ石狩翔陽高校と石狩南高校に短期留学していた彭州市の女子学生2人が帰国するのに合わせて一緒に同市へと向かったのです。

前回の訪問では、地震直後のこともあり、多くの仮設住宅を訪れ、励ましの言葉をかけることができました。しかし行く所、行く所で涙が止まらなかったことも思い出され、今回の訪問も同じ思いになるのではと、心配

## 中国人民のパワーを肌で感じた、 彭州市の旅を振り返って

な面もありました。しかし、復興住宅で生活している彭州市民の皆さんの笑顔がすごく良かったこと、皆さんが今とてもいきいきと生活している姿を見て、今回はとても明るい気持ちになり、今では本当に行って良かったと思っています。

また、建設中の大規模工業団地、多くの従業員が働く家具製造工場、オートメーション化された日120万食製造の即席めん工場、生産から配送までを一貫して行う野菜工場なども視察して、急速に進展する中国経済の勢いを肌で感じることができました。

地震から2年余りで、多くの復興住宅の建設が完成しているというお話に、あらためて中国人民のパワーを感じた、姉妹都市訪問の旅でした。

NPO法人石狩国際交流協会理事  
兼彭州友好部会副部会長 出倉 信子

### 友誼

我が国は舒明2(630)年、第1回遣唐使を派遣し、当時唐の優れた政治・文化・芸術・産業等を広く導入し近代化「律令国家」の道を目指したとされている。今、「中国には知的財産の概念が無い」「ブランドコピーは遊園地から時計、グッズの果てまで」との二者批判。価値観の違いで片付けられることではない。しかし、中国の本質と言えるのだろうか。成熟国家への「現象」とらえることもできるのではなからうか。恐らく千数百年前の唐においては倭国を「物まねの国」と見ていたのかもしれない。「吉備大臣入唐絵巻」での吉備真備の扱いが、それを物語っている。◆遷都1300年平城宮跡に立ち、遣唐使が入唐にどれほどの苦勞と屈辱に耐えながら学ぶ心を燃やし続けたかに思いをはせながら、時代こそ違え、石狩に26年前農業研修生として来られた彭州の皆さんの心境は複雑なものがあったと思う。しかし学ぶ心が清ければ共に理解への道を歩むこととなる。国際交流には「時間」の物差しを異とすることも必要だと思ふ。◆ある国際経済学者の講演で、かつてアメリカは義和団事件(1900年)の際、賠償金の一部を中国に返還し、それを資金として中国最高学府清華大学の礎が築かれたと話された。その意図は親米派の中国人を増やすことではなく、知米派を多くすることだとの説。◆彭州市との調印後、若き留学生を迎えた国際交流協会の事業などは、知石派の広がりへと結びついている。国際平和と双方の地域発展への、遠くて永い道のりの序曲を奏でたこの10年だ。(市長)